

Book Fan Newsletter

発行：平成24年10月10日
編集：塩尻市立図書館
0263-53-3365
(Book Fan Newsletter 4号)

みなさんと本をつなぐ、「Book Fan Newsletter」の第4号です。

表面に、塩尻市内に本店を置く書店さんからの本の紹介を、裏面に塩尻市立図書館職員の本の紹介を掲載しています。

それぞれの担当者が毎月、今話題の本や、目立たないけれどおすすめしたい本などを厳選して紹介しています。

10月27日～11月9日は読書週間。読書の秋の一冊にいかがでしょうか。

『飲む！知る！歩く！』

日本版「ワインツーリズム」のすすめ
石井もと子（著）講談社（出版）



「ワインツーリズム」はその土地のワインや食を楽しみ、人を知り、畑を歩く新しい旅の形。

全国61社のワイナリーの歴史、醸造家紹介や、周辺の観光スポットまで情報が満載！

塩尻・桔梗ヶ原については「日本で唯一、欧州系品種で産地を確立」「ワイナリーフェスタはお勧めNo.1」と紹介しています。

神田堂 大塚さん

『ねずみのいもほり』

山下明生（作）いわむらかずお（絵）
ひさかたチャイルド（出版）

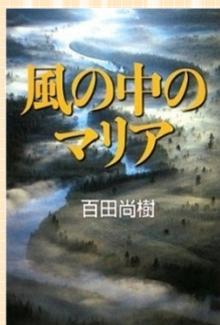


ねずみの7つ子達がお父さんと一緒にいもほり大会に出発します。農園までの道のは電車ごっこしたり、スコップで遊んだりして楽しそう。そして…力を合わせて掘ったおいもは、とっても大きくて一等賞！ おいもをお母さんに持って帰ろうとしますが、みんなでかついでも持ち上がりません…。そんな時、お父さんが思いついた素敵なアイデアとは？ 家族の絆を感じさせてくれるかわいなお話です。

興文堂アイシティ21店 中澤さん

『風の中のマリア』

百田尚樹（著）講談社（出版）



「永遠の0」の作者ということだけで手にした一冊。「えっ、これは何の話？同じ作者？」でも、光景が目には浮かんでくるような描写にぐいぐい引き込まれていきました。擬人化した物語でもありながら

生物学的にも詳しく書かれてあり、今更ながら昆虫の生態を改めて知ることができました。

マリアの一生とは？

「永遠の0」に通じる、命・生き方について考えさせられる一冊です。

中島書店 三溝さん

『ねえ、おつきさま どうしてぼくについてくるの？』

きむらゆういち（著）教育画報（出版）



誰でも一度は不思議に思ったことがあるはず。小さなお子様をお持ちの方はこんな質問をされて答えに困ったことはありませんか？

この本は子供の素朴な疑問、なぜ？ どうして？ にわかりやすく答えてくれるしかけ絵本です。イラストもかわいらしくやさしい文章、ちょっとした実験やしかけで子供に伝わりやすいよう書かれています。物語という感じは少なく、科学的に説明している本なので絵本ですが、小学校に入る位のお子様もオススメです。自然に対する疑問を親子で一緒に解決できる一冊。丸文書店 金子さん



『文明は農業で動く
～歴史を変える古代農法の謎～』

吉田太郎（著） 築地書館

人類を豊かにするはずの近代農業は、環境破壊や収穫減、借金苦を招き、農村は荒廃。大規模農業も実は補助金で維持。この事態を救うのは古代農法かも？ 一見無駄に見える手立ても実は問題を未然に防ぐ知恵。数千年の試行錯誤が生んだ知恵はすごいと唸る一冊です。

産業分野担当

『教科書では学べない

世界史のディープな人々』

鶴岡聡（著） 中経出版

歴史の教科書には必ずなんらかの制約があります。何千年もの歴史を一冊にまとめるのは不可能だからです。この本では、教科書に載ることのない、人々や事象を取り上げています。25のエピソードを読んで、さらに歴史をディープに感じてみませんか？

歴史分野担当

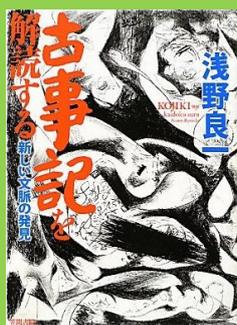
『ヒマラヤの風によって ～進行がん、余命3週間の作家が伝えたかったこと～』

吉村達也（著） 角川書店

著者は今年5月14日、たった22日の入院の末、進行性の胃がんで死去。公式ウェブサイトにも綴った自身による訃報のお知らせは話題となりました。著者が病院のベッドの上で、闘病中の人生を賭して、最後は口述筆記をしてまで残したかったメッセージとは。

日本文学担当

教科書では学べない
世界史のディープな人々



『古事記を解読する

～新しい文脈の発見～』

浅野良一（著） 笠間書院

映像作家である著者が、日本の神々にかかわる映画を撮るにあたって読みを深めていった古事記解読の書。著者が注目したのは古事特有の四原色について。古代日本人にとっての「色」とは？ その意味するものとは？ 「色空間」として古事記を読み解いていく。

日本文学担当



『震災と過疎を越えて

～信州栄村復興への歩み～』

松尾眞（著） 川辺書林

東日本大震災と同時期に地震に襲われながら、全国的には大きく扱われなかった栄村。この本はそんな村内から発信され続けたレポートを7章にまとめてあります。私たちの知らなかった日々が書かれています。

郷土資料担当

